

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

夢・希望・未来 笑顔いっぱい希望が丘
～いつも笑顔で元気にあいさつ、心やさしい希望の子～
○問題意識をもち、自分で判断し、解決する子を育てます。【知】
○自分のよさを発揮し、思いやりのある子を育てます。【徳】
○心と体を鍛え、命と体を大切にすることを育てます。【体】
○まちの人や自然とのかわりを大切にし、共に生きる子を育てます。【公】
○社会の変化に柔軟に対応できる子を育てます。【開】

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

<つなぐ>
～自らの成長を自覚し、適切に行動できる子～
○ 自己理解力
○ コミュニケーション力
○ 問題発見・解決力

具体化した資質・能力

○ 自己理解力
○ コミュニケーション力
○ 問題発見・解決力

中期取組目標

○学校教育目標を実現するため、児童一人ひとりのよさを大切にする、やさしさあふれる学校を目指します。
・児童と教材、児童と児童、児童の過去・現在・未来を「つなぐ」学級経営や教材開発を進めます。
・基礎基本をしっかりとおさえた、わかりやすく楽しい授業づくりを推進し、学力の向上を目指します。
・児童が自己有用感を高め、進んで自己表現できることを目指して、様々な「ひと・もの・こと」との「出会い」「ふれあい」を大切にします。
・近隣の幼稚園・保育園・小学校・中学校や、家庭・地域と連携し、子どもの豊かな成長を目指して信頼ある学校づくりに取り組みます。
・教職員の個性を生かしながら、必要な情報を共有し、協働意識をもって、よりよい学校を目指します。

学力向上アクションプラン

重点取組分野

学習指導

担当 第一指導部会

具体的取組

①授業の見直しをもち学習に取り組めるよう、その時間に身につけたいめあてを授業の冒頭に共通に確認し、主体的に学ぶ児童の姿を目指す。②授業の最初に確認しためあてに対して、自分がどのように学習に取り組むのかを振り返る時間を確保し、また友達と共有することで、次時への足掛かりとなるようにする。③見直しをもち、常にあるめあてを履修して学習に取り組むことができるよう、学習問題(めあて)→自力解決→共同思考→まとめ→振り返りといった学習の流れをもとに、学習支援を行う。④横浜市学力・学習状況調査の結果を分析し、個に応じた学習支援を行い、困り感のある児童に対し学びの工夫をする。

学力向上に関わる本校の状況



(1)学力向上に関わる児童の実態
学力全体を見ると、5、6年生は横浜市平均よりもやや下回り、2年生は横浜市平均とほぼ同じ、3、4年生はやや上回るという結果となった。学力を詳しく見てみると、R4年度から本校が重点研究として授業研究している「国語」では、どの学年も、「知識・技能」と比べて「思考・判断・表現」の力が低い傾向であった。これは、文章で記述する問題になると、何も書かずに空欄で提出する児童がどの学年も一定数いることが原因の1つとして考えられる。他教科を見ると、算数でも、「知識・技能」と「思考・判断・表現」は、ほぼ同じが「思考・判断・表現」の方がやや低い。一方、4～6年生で行った理科、社会では、「思考・判断・表現」の方が高い傾向にある。

(2)これまでの学校の取組状況
・市学状の結果を分析し、朝学習やくんぐんタイムにおいて各学年で補充的な内容の学習指導をし、誰一人取り残さない取組をした。
・重点研究として、主体的な問題解決ができるような導入や単元構成を工夫した学習指導をした。
・学びに充実感がもてるように、「ふり返り」の時間をしっかりと確保し、自己を見つめる時間をとった。

今年度の目標

自ら問題を発見し、解決するためにめあてを立て主体的に学習し、めあてに沿って振り返り、次の学習に生かそうとする姿を育成する。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
○「授業に主体的に取り組んでいる」と答えられる児童を増やし、子どもたちが主体的に行ったよい取組や活動に対して、自分自身でふり返る時間を充実させることができるようにする。
○ICT機器を活用して、視覚的に授業の内容を理解させたり、意見を共有させたりすることで学習の活動を分かりやすくする。
○横浜市学力・学習状況調査の結果分析をふまえ、各学年指導のポイントを明確にした週1回の「ぐんぐんタイム」で、前年度の引継ぎとして計画的に学習内容の強化を図る。

下半期

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野

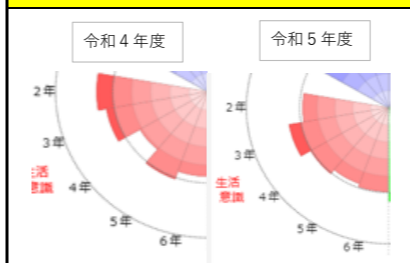
道徳教育
人権教育

担当 第二指導部会

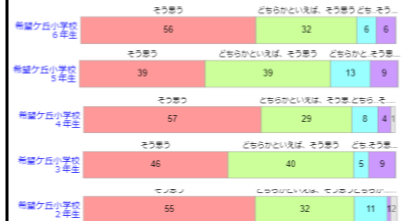
具体的取組

①運動会にペア競技を位置付けたり、ロング昼休みを活用して年間でペア活動日を設置したりして異年齢児童のつながりを築く。②家庭や地域と共に、誰に対しても気持ちのよいあいさつをする子どもを育てる。委員会活動から発信し、長期的に全校で取組み、児童自身があいさつのよさを感じられるようにする。

豊かな心に関わる本校の状況



前年度との比較を考えると、生活意識が全体的に上がってきている。「自分にはよいところがあると思いますか。」という質問に対して、「そう思う。」「どちらかといえばそう思う。」の割合がどの学年も多い方である。自分に自信をもつことで、ほかの人にも優しくできる豊かな心を今まで以上に育てていく。



(2)これまでの学校の取組状況
・道徳科の授業
・人権週間の取組

今年度の目標

○児童一人ひとりが、自分の「よさ」「とくいなこと」を自覚し、自己肯定感を高められるよう、豊かな心の育成を目指す。
○児童一人ひとりが「あいさつ」の大切さやよさを考え、気持ちのよいあいさつを実践できるようにする。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
○毎日の生活の中で、意図的に称賛の声かけをしたり、子どもの活躍の場を設定したりして、自己受容や自己理解を促進できるようにする。
○子ども一人ひとりの自己肯定感を高められるように、「よいところ見つけ」「理想の自分になるために」などのプログラムや学習を実施する。
○運動会でのペア競技や定期的なペア活動の充実を図り、ロング昼休みに定期的に活動を位置づけたり、各ブロックで時間を設定したりする。互いが自分の成長を実感したり、コミュニケーションのよさに気付いたりする中で、「自分」を見つめ、自分を肯定できる心情を育てる。
○「横浜こども会議」のテーマと関連させ、夢の希望つ子委員会が主となって取り組む。「誰もが安心して過ごせる学校」「いじめのない学校」に向けて、各クラスに取り組みのアイデアを募り、代表委員会にかけ、合意形成を図ったものを運営委員が推進していく予定である。

下半期

健やかな体の育成プラン

重点取組分野

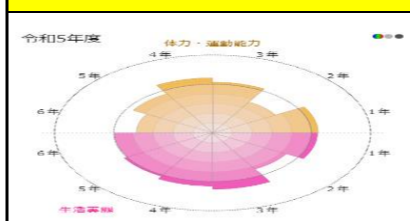
健康教育・食育
安全教育

担当 第三指導部会

具体的取組

①家庭と連携し、規則正しい生活を送ろうとする姿勢を培うとともに、食育や歯科保健教育を実施する。②体力テストから児童の実態を把握し、授業に役立てる。③スポーツフェスタで様々な競技・演技に取り組む。④友達と一緒に楽しむために、子どもたちが企画・運営を行う「体力アップ大作戦」や「大縄集会」を実施する。⑤「給食月間」など授業職員と連携して食育活動を行う。⑥定期的な様々な状況を想定して避難訓練や不審者対応訓練を行い、教職員の動きも確認・訓練をする。⑦交通安全教室、防犯教室、携帯電話教室等を行い、児童・保護者の安全意識を高める。⑧性教育プログラムを策定し、自他を大切にできるようにする。

健やかな体に関わる本校の状況



(1)健やかな体に関わる児童の実態
コロナが第5類になって、行動制限がなくなった影響もあるのか、児童の普段の運動時間も、学年によってバラツキはあるもののR4年度よりR5年度の方が多い傾向が見られる。特に、2、3年生の体力・運動能力が全体的に上がっているのは、運動をするという機会が増えたことによるとも考えられる。立ち幅跳びの値が低くなるのは、「普段経験していない動き」である可能性がある。また、数多くの公園があったり、地域のレクリエーションがあったりなど、体を動かす環境にも恵まれている。

(2)これまでの学校の取組状況
○食育・・・給食委員会の取組を通して、栄養バランスを考えた食事のとり方などを全校に伝えた。また、家庭科では、食育との関連を図り望ましい栄養や食事のとり方を理解できるようにした。
○健康教育・・・体育科では、体力向上を意識し、自ら進んで運動に取り組もうとする意欲が身につくような授業展開を図った。スポーツフェスタでは、様々な競技・演技に取り組んだ。体育委員会主催の「大縄大会」を開催した。
○安全教育・・・定期的に様々な状況を想定しての避難訓練や不審者対応訓練を行った。自分ごとで動けるように、児童・教職員の動きも確認した。

今年度の目標

○運動の楽しさを実感し、友だちと関わりながら進んで体を動かし、体力を高める活動を実践する。
○運動を楽しむための基礎基本となる動きを身につけるため、授業を工夫し、充実する。
○身に付けた正しい知識をもとに自分の生活を見つめ直し、より健康的に生活をおくろうとする態度を育成する。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
○集委員会による朝の集会、体を動かす遊びの紹介などを全校に発信したり、スポーツ委員会による大縄集会なども実行したりすることで、体を動かす楽しさを実感できるようにする。
○4、5月の健康診断や6月に予定している体力テストの結果を児童一人ひとりが振り返る時間を確保し、自分の体や体力を知り、自ら体力づくりができるようにする。
○授業では、十分な運動量を確保し、児童が自分の運動課題の解決をめざす活動ができるように、学習カードやグループ学習の活用やICTを利用するなど指導支援する。
○食育では、給食委員会の取組みなどで、バランスの良い食事などを紹介しながら、食について学ぶ機会を設ける。
○災害時、自他の生命を守るためにいろいろな場や避難経路を想定して、避難訓練ができるようにする。
○学校と家庭が協力し合い、児童への情報モラル教育を行う。(保護者参観型で、土曜参観でサイバー教室を開催)

下半期